

宮城県多賀城高等学校 災害科学科開設式 宮城県教育委員会式辞

先ほど、小泉校長先生から入学を許可されました二百七十九名の新入生の皆さん、保護者の皆様入学おめでとうございます。

多賀城高等学校の災害科学科は、東日本大震災から学んだ教訓を確実に次世代に伝承するとともに、今後国内外で発生する災害から一人でも多くの命とくらしを守ることができる人材を育成するため、防災系学科としては、兵庫県の舞子高等学校環境防災科に次いで全国では二例目、県内では初めて開設したものであります。

多賀城高等学校は、昨年度創立四十周年を迎え、二十一世紀を担う人物の育成という観点に立ち、時代をリードする本県教育の一翼を果たしてこられ、県内外で様々な分野で活躍する有為な人材を輩出してきました。

本日入学された生徒の皆さんは、これまでの普通科の伝統継承に加えて、新たな災害科学科の設置により、災害科学科第一期生としての新たな歩みをスタートすることになりました。

災害科学科の開設に向けては、県教育委員会と多賀城高等学校職員が一体となって、東北大学をはじめ全国の専門家の皆様から御助言をいただきながら学科設置の準備を進めてきました。これまで、多賀城高等学校では県内外の大学や研究機関と連携した講義や実習、津波波高の標識設置、防災ワークショップや被災地ガイドボランティアなど、被災体験をもとにした様々な活動を通して、生徒自身の防災意識を高めるとともに、科学的視点から防災・減災を考え、自らが他者と交流する防災教育を行ってきております。このような活動は、国連防災世界会議「世界防災ジュニア会議」での発表が金賞を受賞するなど、すでに成果をあげております。

これからは災害科学科の設置によって、防災教育を県内外に広げるパイロットスクールとしての役割が大きくなります。学校全体で防災に関する知識・技能を習得する防災教育を行いながら、災害に関する科学的見地を修得する専門的教育を災害科学科で行うことで、防災教育の充実と深化に取り組んでいただきたいと思いますと考えております。

生徒の皆さんには、「さとく・ゆたかに・たくましく」の校訓のもと、将来の進路及び社会で自らが果たす役割を考え、「探究的な活動」を通して「行動力、活動力、コミュニケーション力」を高め、リーダーシップを備え、幅広い分野で活躍できる人となることを期待しています。

教職員の皆様には、これまでの開設に向けた御尽力に感謝申し上げますとともに、これからがスタートですので、災害科学科の特色を生かして、生徒の夢や志の実現に向け、ご指導をよろしくお願いいたします。

結びに、多賀城高等学校災害科学科開設のためにご尽力・御協力いただきました東北大学災害科学国際研究所今村文彦所長をはじめとする、防災教育専門アドバイザー、大学や研究機関の関係者や地域の方々、そして教職員の皆様に感謝の意を表するとともに、今後とも宮城県多賀城高等学校の発展のために御支援を賜りますようお願い申し上げ、式辞といたします。

平成二十八年四月八日

宮城県教育委員会教育長 高橋 仁（代読）